

## 令和3年度 学校経営方針における本年度の重点目標実現に向けた取り組み状況

※「達成状況」の項目 … ◎上回った ○計画どおり ●下回った

1 学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり	
目標	達成状況
(1) 生徒状況の把握と必要な生徒への支援の実施。	<p>○希望者に対してスクールカウンセラーによるカウンセリングを計画的に実施した。その結果を担当、養護教諭、特別支援コーディネーター、教頭間で情報共有し、必要に応じて外部機関と連携して生徒の支援を行うことができた。</p> <p>◎特別支援教育委員会を毎週開催し、特別な支援が必要な生徒について情報共有を行い、チームとして支援にあたった。</p> <p>○SHR時は、校長、教頭を含む全職員で対応し、生徒一人ひとりにきめ細かな支援を行った。</p> <p>○1年生の寮生全員及び2, 3年生の寮・下宿生を対象にカウンセリングを実施した。最初の相談では深い話には至らなかったが、このカウンセリングがきっかけとなり、次の相談につながった生徒もいた。</p> <p>○1年生全員を対象に校長面接を行い、学校での様子を把握し、その後の支援に活かした。</p> <p>○アセス（学校環境適応感尺度）を全学年で2回ずつ実施し、学習・生活両面で悩みを抱える生徒を把握し、その後の支援に役立てることができた。次年度も継続して実施する。</p> <p>○RAMPSを導入し、自殺の危険性があると判断された生徒に対し、家庭と情報共有を行い、医療受診や関係機関への相談につなげた。</p>
(2) 地域と共にある白馬校生としての自覚の喚起。	<p>○毎日のSHRでの日常的な指導に加えて、6月と12月に「規律を高める週間」を設定して服装チェックを実施した。また、挨拶の励行と基本的な生活習慣の確立と校則の遵守について周知徹底を図った。</p> <p>○「恩返しプロジェクト第一弾」と題し、生徒会役員を中心とした生徒が、駅方面、寮方面の通学路を中心に、ゴミ拾いや落ち葉掃きを行い村内の美化に努めた。</p>

<p>(3)個に応じた学習支援。</p>	<p>○<u>ティームティーチング、少人数クラス編成によるきめ細かな指導</u>を行った。</p> <p>&lt;該当授業&gt;</p> <p>1年9科目：国語総合、数学Ⅰ、科学と人間生活、生物基礎、コミュニケーション英語Ⅰ、総合英語、代かきタイム（学び直し）、観光Ⅰ、異文化理解</p> <p>2年11科目：現代文、数学A、化学基礎、生物基礎、総合英語、英語表現、観光コミュニケーション英語、観光Ⅱ、環境、環境Ⅰ、山岳基礎</p> <p>3年10科目：現代文、環境Ⅱ、野外と教養、化学、生物、ニュースポーツ、総合英語、英語表現、国語表現、アウトドアスポーツ</p> <p>○平日17時以降および週休日の「<u>しろま塾</u>」において、<u>進路指導を中心に個別指導を行い、第一志望合格者が8割を占めた</u>。そのほか、基礎学力補充にとりくみ、学力の向上に繋げることができた。</p> <p><u>実績（4月～1月末現在）196時間</u> ⇒ 今年度の進路先は、17, 18ページに掲載</p> <p>○公営塾との情報交換を2か月に1回実施し、利用している生徒の学習支援や進路に向けた連携を行い、生徒の実情に合わせた効果的な指導につなげることができた。</p> <p>1年生13人 2年生14人 3年生5人 合計32人（うち特進コース4人）</p>
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザインの具体化支援

目標	達成状況
<p>(1)みらい協育サポーターとの連携事業の具体化。</p>	<p>○デュアル実習を2年ぶりに実施し、お客様の目線に立って<u>自ら考え、行動することの大切さを学ぶとともに、人の目につかない部分での仕事の大変さと重要性を体験</u>することができた。</p> <p>3年生：国際観光科6名（岩岳リゾート、シェラリゾート白馬、白馬東急ホテル、パタゴニア） 2年生：普通科2名（シェラリゾート白馬、白馬村役場）</p> <p>○高校生ホテルを2年ぶりに実施し、<u>お客様やスタッフとのコミュニケーションの重要性や協働することの大切さを学んだ</u>。実習を行うことができたことに対して、改めて<u>地域への感謝の気持ち</u>がわいた。</p> <p>国際観光科2年生 11月25日（木）、26日（金） しろま荘12組25人、丸金旅館11組20人</p>

<p>(2) 信州大学学生・教員と連携したプロジェクト学習の実施。</p>	<p>○12月17日(金)文科省の地域協働事業が縁で来校した糸魚川高校との交流学习において、荒井英治郎准教授より、生徒が行った探究活動について助言をいただいた。</p> <p>●コロナ禍もあり、信州大学学生と連携したプロジェクト学習は実施に至らなかったが、PBLの活動において学習院大学の学生・教員と連携し、白馬の課題解決に向けた意見をいただきながら継続して取り組んでいる(9月より毎週水曜日に実施)。</p>
<p>(3)「地域との協働による高校教育改革推進事業(地域魅力化型)」3年目の取組。</p>	<p>○SDGsラボと連携し、昨年度白馬村再生可能エネルギー連絡協議会に生徒3名が参加。そのことをきっかけに「地域と暮らしのゼロカーボン勉強会」が立ち上げられ、ゼロカーボンに関する勉強会に1年生6名が参加している。このほか、2年生はウォーターサーバーの設置とマイボトルの商品化、断熱プロジェクトに継続して取り組んでいる。</p> <p>○スポーツビジネス(国際観光科3年)の授業で企画した「地域応援SKYフェス」を8月17日(火)に岩岳リゾートで実施。コロナ禍で多くのイベントが自粛される中、発表の場を失った10代の若者にその場を提供し、地域の人たちに音楽を通じて元気を届けたいという思いで生徒が発案、企画運営にあたった。必要資金はクラウドファンディングによって集めた。</p> <p>この取り組みを12月12日(日)マイプロジェクト長野県 Summit にて発表し、長野県知事賞受賞。3月に行われる全国 Summit に出場する。</p>
<p>(4)検定資格の取得促進。</p>	<p>○各種検定 今年度合格者(1月末現在)</p> <p>*<u>実用英語検定(2級4人、準2級10人、3級12人)</u></p> <p>*漢字検定(準2級4人、3級5人)</p> <p>*日本語ワープロ検定(準2級4人、3級5人)</p> <p>*情報処理技能検定表計算(1級1人、準1級2人、2級3人、準2級4人、3級3人)</p> <p>*社会人常識マナー検定(2級1人、3級18人)</p>

3 支援係との連携体制の一層の強化。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進	
目標	達成状況
(1)「白馬高校支援係」との緊密な連携。	<p>○地域みらい留学参画へ連携・協働した。</p> <p>○個別相談、学校・寮見学に県外から14家族が訪れ、支援係とともに対応した。 ※資料送付13件</p> <p>●全国募集活動は、東京3回、名古屋・大阪各1回を予定したが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により実施を断念した。</p> <p>○福島のり子氏（本校卒業バンクーバーオリンピック出場）によるグローバル講演会を開催し、「白馬に生きる」をテーマに、<u>社会における自己の役割や自分らしい生き方を、生徒が考える機会</u>となった。</p>
(2)寮生・下宿生への支援。	<p>◎支援係と毎日電話で情報共有を行い、対面での打ち合わせ相談も頻繁に行った。<u>新型コロナウイルス感染症への対策や、寮生・下宿生および保護者への個別支援</u>に対して、緊密な相互連携により適切に対応することができた。</p> <p>○<u>寮生・下宿生連絡会議を毎月開催</u>し、支援係、寮スタッフと綿密な情報交換を行い、生徒指導に役立てることができた。</p> <p>○職員による寮・下宿訪問を実施し、スタッフとの情報交換、生徒に対する生徒指導、学習指導を行った。1学期を中心に訪問し、10月以降も随時訪問した。 <u>1月まで32回、延べ35人が訪問</u></p>
(3)地域の行事、活動への参加を通じた児童・生徒・地域住民との交流促進。	<p>○コロナ禍で様々な活動が制限される中ではあったが、五竜登山道整備や特定外来植物の駆除、パラスポーツ体験に参加し、地域との交流を深めることができた。</p>

## 4 地域みらい留学を通じた全国募集の促進と地元生確保に向けた、地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化

目標	達成状況
<p>(1) 地域みらい留学への参画</p> <p>(2) 地元中学生およびその保護者に対する積極的な情報発信。</p> <p>(3) 地元小中学校の学習活動への参加・協力。</p>	<p>◎全国募集に向けたオンラインによる説明会を合計12回実施。  合同説明会7回 個別説明会5回</p> <p>○生徒・職員が、<u>地元の中学校を訪問</u>して本校の特色ある学びや特徴的な活動に関する紹介等を行った。  3年進路講話・学校説明会：白馬中学校2回、小谷中学校2回、  大町第一中学校、仁科台中学校、松川中学校 各1回</p> <p>○保育系への進学を希望している3年生2人がしろま保育園でアルバイトを兼ねた保育実習を行った。コロナ禍での実施となり、予定より期間が短縮となったが、園長先生からは、ぜひ来年も継続してほしいとの評価をいただいた。</p> <p>○<u>白馬高校通信「レポートチャンネル」</u>毎月発行し、白馬村広報誌に掲載していただいた。本校ホームページにも掲載した。</p> <p>◎本校ホームページに、<u>校長Diary（4月より44件）、白馬高の日常（9月より16件）</u>を掲載し、情報発信に努めた。今後は、TwitterやInstagramといったSNSを活用した情報発信を行っていきたい。</p> <p>○白馬南小学校の断熱プロジェクトに協力した。</p> <p>●白馬南小学校スキー学習に協力する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。</p>